



就任のご挨拶

横河電機健康保険組合
理事長 菅田 学

横河電機健康保険組合の事業主各位、並びに被保険者とそのご家族の皆さまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、相澤前理事長の後任として、当健康保険組合の理事長に就任いたしました。

当健康保険組合は、昭和11年の設立以来、70年余りにわたり、被保険者やご家族の方々から信頼される健康保険組合を目指し、健全な組合財政を保持しながら皆さま方の健康づくりへの取り組みに努め、円滑な事業運営を進めてまいりました。

しかし、健康保険組合を取り巻く環境はますます厳しいものとなってきており、平成21年度予算では90%を超える健康保険組合が赤字予算を計上しており、経常収支は6,152億円の赤字となっております。各健康保険組合も低迷する経済環境に加え、新しい高齢者医療制度による納付金・支援金等（総保険料収入の45%を占める）により組合財政が圧迫され、苦しい健保運営を余儀なくされています。

そのようななか、当健康保険組合も「けんぽだより春号」でご案内したように、今年度は、経常収支が22億円という大幅な赤字予算でスタートしております。他の健康保険組合と同様に新しい高齢者医療制度による納付金・支援金等が保険料収入の60%を占める一方、100年に一度という経済環境の悪化により、保険料収入につきましても非常に厳しい状況にあるためです。また、平成16年度に保険料率を72/1000から56/1000に引き下げ、法定準備金と同額程度まで別途積立金を取り崩すことを前提に、これまで組合運営を行ってまいりましたが、準備金と積立金に乖離がなくなってきたことから、平成22年度には保険料率を上げざるを得ない状況であることは、既に組合会でも報告をし、了解を頂いております。具体的な方法等につきましても今年度から来年度に向け、積極的な事業の改善施策を進めるなかで慎重に検討してまいりたいと考えています。

このように非常に厳しい状況ではありますが、今後も健康保険組合本来の役割を忘れず、1次予防をより意識した保健事業に積極的に取り組むことに努め、皆さまの健康づくりと医療費削減による健保財政の健全化を目指してまいります。また、皆さまにおかれましても、今年2年目となります特定健診を今年度も必ず受診され、その結果をご自分の健康管理に十分に活かされますようお願い申し上げます。

このような時期に理事長に就任し、その責務の重大さを強く感じておりますが、各事業所とも十分なコミュニケーションをとりながら、微力ではございますが、健康保険組合の健全で安定的な事業運営と、さらなる発展のため全力を注ぐ所存でございます。今後も皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。